新約聖書 雅各 彼得後 彼得前 猶太書

價貳錢

柳田文庫
文庫11
A1516

文庫11
A1516

耶蘇降生一千八百八十年

新約聖書

雅各・波得前
波得後　猶太

翻譯委員社中
米國聖書會社

明治十三年

日本横濱上梓

48- 931

使徒ヤコブの書

第一章

神および主イエスキリストのしもべヤコブ各處に散らされたる十二の支派に安きをとふ　二　わが兄弟よ汝等試誘に陥ることをよろこぶべきことと思へ　三　そは爾儕の信仰のこころみは忍耐を生ぜしむることを知ればなり　四　忍耐をして全くその備てこの欠くることなからしめよ　五　もし汝等のうち智慧に乏しきものあらば大方とがむることなく惜しまずして衆人に与へたまふ神に求めよ然ばかれらは六　疑ふことなく信じて求

求べし。うたがふものは風にうごかされひるがへる海
浪のごとし。七 斯のごとき人は主より何事にても
ると。想ふべきは八 このくの如ひとは貳心にして行ところ
の事にまことにさだまりなし。九 卑賤きものはおのれを高ぶる
ことをよろこびとせよ。十 富者はその卑賤ることを
よろこびとせよ。そは草の花のごとく逝べければなり
十一 そは日いでて熱し草をかれしぼませその花おちそは美容き
ゆ。かくのごとく富者もまたかくのごとくその爲ところ多のまさし
て已まづほろびん。十二 ためしを試誘をうくるものは福なり。
そはこれをみを約束てよしとせられたる生命の冠を

うくべければなり。此のうむ主は主を愛するものに
約束したまひしところのものなり。十三 さそはるるものは神
てこれを惡にさそふといふなかれ。神は人をもなくに誘たまはず。十四 人なるにさそはるるは
其の慾にひかれていざなはるるなり。十五 慾はやがてはらみて
罪をうみ罪はやがて成て死をうむ。十六 愛する兄弟よ
欺まどはるなかれ。十七 すべて此善賜とまことなきものは皆
り諸の光明のちちよりくだるなり。父はこのうごくことなくま
た轉動てあらそふ影をもなきものなり。十八 彼はおのれ旨
ちからをもて眞道をのりてこれをうまれしめ是をもてそのう

くるところのをれくるまて初よりむきべる果のごときをれ
とあらしめんなめり○十九このゆゑふさが愛まるきやう
だいよ人わのく聽ことをきみやうしゝ言ことをわそくし
怒ことをわそくまべし二十そハ人のいのりハ神の義をわこ
るふことをせぎまいり三然バをろくの汚穢とわるくの
邪惡をまて柔和をそるんちそのこゝろよ雖なるとこ
ろれ靈魂をまくひうる道をうくべし三るんぢうことをを
わこのふ者とるべし徒こゝをきくのみよしそみづからを
欺ものとるなり三夫こゝを聞のみよしそこきを
わこるをさるものハ鏡よりひて本來此面をみるひとる

似たり二四この人わの人をうつし觀てさり後れちまそのの如
何なる相貌なりしをそたる三五されば自由なるまハたき
律法をねんごろよみそもるまざるものハこゝを功をたてゝ
ふものまして聞てこゝをるこゝをものよあらず。これ人そのれそ
るふとゝろ福あらん二六るんぢのうち誰かをしみづから
神よつゝふるものとわをひてそれ舌よ轡をつけば自その
こゝろを欺バそのつゝふるこゝろハ徒然なり二七神なる父の
まへよ潔して穢なくつゝふることゝハ孤子とやもめをそれ
患難のなかよ眷顧まさみづからまもりて世よけがされざ
る是なり

第二章　ろうど兄弟よ　あんぢらきゝ給へ主なるゝ　ゝゝの十い
西たキリストのあんゝゝの道をまもゝんまん人をこのたよ
まみることゝのゝ　二　若ひゝく金環をもめうるをしき衣服を
きてゝあんぢゝの會堂よきたり又まづしき人はけがしてゝる
ろもを著てきたらんよ　三　あんぢゝうるをしきゝゝをき
たる人をこのゝりみてゝあんぢこれ榮位よまゝゝゝといひまた
貧者よあんぢ彼處よたゝといひ或いゝゝあゝ此下よまゝを
きといそで　四　あんぢゝいたのくれゝも分別をたゝまゝ惡
念をゝて人をゝゝゝをめよあゝゝや　五　ゝゝ愛まるきやう
だいよ聽のみいゝこれ世のまづしきものをゝらびて信仰よ

とゝ世己をあいまるものよ約束しなまひしゝゝろ此國を
つぐ者とゝゝしめたまふよ　六　ゝゝまやあゝるよ爾儕
まづしきものをいやしめたり。あんぢゝを凌虐まゝ裁判所よ
ひくものゝ富者よゝゝやゝこのまゝいあんぢゝがとゝあゝ
らゝゝとゝゝ此美名をけがすものよあゝやゝあんぢゝ
ゝ聖書よのまゝとゝゝ此たのまを愛まるごとく鄰を汝
いたべゝといゝるたゝまき法をまゝゝゝそれたゝゝのと
ゝゝ善九さまどゝゝ人をこのゝゝゝみることをせこゝ罪
をたゝゝあふゝり律法あんぢゝをきめて罪人とせん十人
たきゝてをゝゝく守ともゝゝそれ一よつまづゝゝれ

きんぐてを犯すり十二そも姦淫まるあらんといへる者また
ろをまとあうまと いへるんぢら姦淫せぐともを〳〵殺こ
とをせを律法況そうをものとなる十三るんぢら言こら
わらるふこと自由のわきてよりて鞭をうけんとまるを
の〳〵ごとくきんぐ〳〵十四なをまむことをせざる者はさちろく
ときに赤なをまること あらんん矜恤はさちきに勝あり
十五我きやうだいよ人みづから信仰ありといひて〳〵行る
くぶるよの益なるんやその信仰いうぐこのまをまくひえん
や十六を〳〵兄弟なるひは娼妓もぐうまて日用の糧にとも〳〵
このうんに十七るんぢらのうち或人こまるいひて安然まて

ゆけ願はるんもぢらなのれ〳〵あるまて飽ことを得よと。をの〳〵
てその身體まるくてるうぬをのをこまるあなへまばるん
の益なるんやまこのくのごとく信仰をも〳〵行をこのねざるとき
はまるもち死るあり十八あるひと言んるんぢ信仰ありまを
わらるひあり請るんぢがわらるひを兼ざるまんうをまう
をまるまめせられはわが行まよりてまぶ信仰をるんぢに示
きんと十九るんぢ神はなひとりるまと あんを斯まんぢる
はよ〳〵惡鬼をまく信じてをの〳〵けり二十噫わらるる人よ
わらるひを このねざる信仰のまぬることを爾まうんとわ
ぶや二十一まきらの先祖アブラハムその子イサクを壇のうへに

さてげて義とせらるまたるい行よるにあらざるや三その志
んうう行とせるよまたうきり且わらるひよりて信仰まつ
なきをえるをあんぢみるべし三らき聖書よあるしく
アブラハム神をしんぢ彼その志んうを義とせらきたりと
あるよるのへり。うきまさ神の友とよばきたり四あんぢう
人の義とせるるへい信仰よのみよるよりぢ行よること
をあるるべし二五また妓婦ラハブ使者をうけらきをは
うの途よりさしめて義とせられたるそ行よるよあう
ばや二六身をし霊魂そるるきばあるる如志んうも行そるる
きば死るるう

第三章 そなぢ兄弟よあんちらおるく師とるるべのうばそい
うきう師たるその、罰をうるることもおりしとお
きばなり二そきうはみるあらばくゆるるものあう人を
し言よあやまちるくばこれ全人よしてぜんたいよ轡をた
きうるう三そきそきう馬をわのきよあらばそせんとし
てその口よくうをわくときはその全體をまるにべし四
舟もまさその形いおわきく目をばしき風よおいるしうを
小舵をそこのぢとうの意ぢきまよこきをまうきうう五この
くのごとく舌もまたちひさきものよして誇うとおおいる
り視ようばうの火いるよおいある林をやはを六舌は

まるいち火まるまる悪の世界なり舌ハ百體のうちよりそる
もりありて全體をけがしまる全世界をもやかるなり。あつた
火いぢごくより燃いづるそもさまざまの獣禽昆蟲うみよりな
るものみる制をうくまさもでよ人よせいせうをたりハさ
まど人なまを舌を制しなるそだ乃わきへこがたき悪よりて
死毒のみそるものなり九そもうこもをもて主るるちくを
祝まる死こきをもて神のこのたちよりてつくるをたるる
人をのろふ。いもひと詛ひとりの口よりいづ。そも兄弟よ
このくのごときこもんなるべきよなるだ土泉のみるものとも
一穴よりなるまき水とはなるき水をとるよいかきんや土そも

兄弟よいちぐのき撹攪の果とひもび或ハぶがうのき無
果花の果をむもぶこをえんや斯のごくいづみのみる
ものと鹹水と淡水をとるよいかにことなるべんや十三そんちく
の中のこくあるきとものハ誰るるやそうてるる智慧
をもてよきわるものをあらそひ十四然とのしるんぢら
心のうちよ苦嫉とはるそひをいがらぢ是まことよそむく十五
まり眞理よそむきてあるるまた謊るるを十六このるる
智慧ハうくよりくだるよなるだ地よつけるもの情慾よつ
けるもの惡魔よつけるそのまり十七そハねたみと怒爭ある
ところもん亂とさまざまの惡事とあるそまり十八さまざまと上よ

その中に第一に きよく つぎに 平和 寛容 柔順 この 矜恤
と 善果 みち人を このように みだれ 偽るものの 人義の
果いへいを たのしむ その 平和を そそ 種によりて むを
ぶなり

第四章 なんぢらの戰となるそひいづこよりきたるや。なんぢらの百體のうちに
きたるにあらずや。二 爾儕むさぼりども 殺こと
し 嫉 ことを もまども 得ること あたはず。なんぢら 爭競 い
きせりなんぢらは 求ぎるに よりて えざるなり 三 爾儕 ものと
めてなほ えざるはなんぢら 慾のために つひやさんとして

姦淫をたこるふ 男女よ なんぢ
ら世を愛むことは 神に あだまるなり なんぢら世
の友となんこと を 神の敵なり 五 聖書に
ら を愛と いへるを なんぢら虛こと 思ふや 六 神 さらに
わるいなる 恩惠を あたふ 此によりて いふ 神 ひたるふるを
を 拒へりくだるに 思を あたふと。七 こゆゑに なんぢ
ら 神に ちたがへ 惡魔を ふせぐ。きたれば 彼 なんぢらを にげき
らん なんぢら 神に ちかづけ。きたれば 神 なんぢらに ちかづ
きたまへん 罪人よ なんぢら 手を きよく せよ 二心の もの

よるんぢらの心をいさぎよくせよ九 ゑんぢら苦しみるるしめ
況るんぢらは笑をこのるしみよ易よ。ゑんぢらの喜をうれ
よこのくよ十 みづからを主のまへにひくくせよ。さらば主る
んぢらをたかくせん十一 兄弟よ たがひにそしるなかれ。きやつ
うだいを誘なるひと兄弟を議にるものは律法をそしり律
法をぎせるなり爾をしかきてを議せば かきてを行ふものに
よるなくば律法をぎせるなれ 十二 律法をおくるものは人をぎにる
もはただひとりなり彼はせくふこと滅ぼすことをなしう
るなり爾たはゑんぢは隣を議せるか 十三 それら今日明日そは
ぐしの邑にゆきこのしこと一年とゞまり賣買して利をえん

としふことをよ 十四 ゑんぢら明日はことをしらざるゑんぢらは
生命はなにぞ暫なりもまてつひにきゆる雲霧なり 十五 ゑん
ぢらの言ことはこのくにゆくは主のゆるしなくばそはくい
きて或はこれこと或はこのことをなすと 十六 さるど今ゑ
んぢらたかぶりてはかることをなす凡てこのごときは
こりは惡なり十七 ひと善をなすことをしらずしてこれをな
こるものはざるは罪なり

第五章 富るゑんぢらよゑんぢら既にきたるなんとまるるなげきなひ
をためひてなきさけぶべしニ ゑんぢらのたからは朽るゑん
ぢらは衣服はしみくひ三 ゑんぢらの金銀はきびくされり

これ錆あらしをるしてゐんぢゝを せめこのゝ火のごとくゐんぢゝの肉をくゐんゐんぢゝ此ま為れ日よありてゐは財をたくゝふることをせり四視よゐんぢらぶその田をこのゝ犯し雇人よあたへざる値いさけびそれ刈りしものゝよぶこゝ為いまぞよ萬軍の主れみよいれり五ゐんぢゝ地よ誇りてをりたれたゝみ暑らゝ日よありてゐネその心をよろこませり六ゐんぢゝ義者をつみよきだめ且ことをころせり彼ゐんぢゝをふせぐぎりき○七兄弟よ志のびて主れきたるをまつべし視よのゝふ地のたふとき産をうるをのぞみて前と後とゐあめをうるまでゐゝ忍てことをまをり八

ゐんぢゝもものゝ溺俤のこゝろをこのゝうせよそは主のきたるまふことちづけをゐり九兄弟よゐんぢゝ互よらもることゐうを恐くい罪よきだめらをん視よきびきをるも れ門のさんよたり十兄弟よゐんぢゝ主の名よりてこのゝ預言者をくゝみと志れびとの式ををゝ十二をきゝ志のぶものい福ゐりとれめふゐり。ゐんぢゝ曽て主の志れびをきけり主いゝこのをゝゐ。ゐまひしゝそれ結局をみよ。をゐゐゝ主い慈悲ふゝゐゝ矜恤あるそのゐん十三きやうだいよ十切ちゝふゐゝをきあるひい天ゐゝひい地あゐひを他物をさしてちゝふゐゝをきゐんぢゝ是を是と

否を否とまべし。おそらくいまゐんぢら罪よりきびめらまん十三
ゐんぢらのうち誰ろくろしむものあるか。なんぢら祈禱せよ
たまろよろこぶものあるか なんばそれ人さんびせよ十四あ
んぢらよりこぶものあるか。なんぢむけうくろいの
長老たちをまねく屋。この主此名よりてその人よあ十五
ぶらをそ ぎこと色がためにいのらん 信仰よりいづ
るいれまん病者をまくふべし主こと名をたらきんを罪を
をん せしこと なんぢゆるさまん十六 あんぢらたがひよ過を
いひなろいし且やまひをいやさること紙えんためよ互
よいのろべし義者のあつきいのりは力あるなれり エリア

いつまつと同情のひとあり。彼ああらざることを切よい十七
のみけまを三年六ヶ月のなひだ地よああらざりき十八 復
いたりけまを 天より雨ふりて地その産をそえいだせり十九
そぐ兄弟よ もんぢらのうち或いまことに道よりまよへる
ものあらんよ 誰ろこまをひきくさば二十 ろに人ろべし
罪人をそのまよへる道よりひきくにい乃それなまひ
を死よりまくひ且おろくの罪をおほふこと

新約聖書雅各書終

使徒ペテロ前書

第一章　耶蘇キリストの使徒ペテロ書をポントガラテヤカパドキア
アジア　ビテニヤに散ておるまれなる者に父なる神の
いんよりたまたまとめ耶蘇キリストの血によりて恩恵めんと
して其あるうどめ知たまふところろよりたがひ靈のきよめ
をもて選たまひし人々よりわれくる願くはあんぢらに恩寵と
平康のまさんことを○三讃美あれ　このる神ちちなる主イエ
スキリストのちち彼その此おほいなる矜恤をもてまたしなをふ
たたび生まれまるをして耶蘇キリストの復甦たまひしことよ
りて活るのぞみを与へ世四亦ちちなるのためよりて天よりきた

おある朽ちけぶ滅び衰へざる嗣業をあなたのためにあり
五・なんぢら信仰によりて神のちからにまもられ已にそなる
へあるところ此末時にのぞみて救をうるにあり六
こゝをよりてなんぢらよろこぶ今あなたがたくさまざまの難
難にあふてしばらくざるをえざるといへども卻てよろこびを
なせり七なんぢらの信仰をこころみらるゝいくらいる金此
火にこころみらるゝまりもなほくしてなんぢら耶蘇
キリストのあらはれたまふときに稱讃とたふときと榮光
をうるにいたらんハなんぢら耶蘇をみざれどもこれを愛
いまこれをみるにのへども信ずそれ快樂いひがた
なくまたさかえあり八なんぢらあんがうの效まちまち
靈魂のさいはひをうるによる十なんぢらがうけるところの
恩をよびんぶ預言者たちこれをたづねこれをこころを
探索こゝろ所、ぶ預言者たちこれをたづねこれをこころを
の靈キリストのうけんとまる苦とその後ち得んとまる榮を
あらかじめ證あらる此いかなるときを示せ
ると所ならびにこの時いかなるを默示をうけて其つ先
ふるところの事れ此のためにあるこ
とを志まり。その傳へらるといまは天よりおくりたまへ聖
靈によりて福音をつたへるなんぢらにつぐるとこ

ろ此こゝとあり。この天使たちも主うんこゝろをわゞへ
り。十三然バあんぢゝこゝろ此腰をおびして微醒し此キリスト
此あらいまたまゝ時あんぢゝはきたゝんとまる恩惠をう
たゞちまして空べ十四あんぢゝ孝子あるよりて從前の
くゝきとき此慾をあゝふことあく十五あんぢゝを召たまゝ
聖者よあゝひてまゞその行をきよくまべし十六そゝ録てを
まきゝゝけ学ゝあんぢゝも潔まべしとあれバあり十七人をこの
たゝりみを各人のおこるひをまりて鞭をあんぢゝを
し父とゝゝ世をやとまる日をおそまてまゞらにべし十八そ
いあんちゝあゞあんまそ祖父よりつたまりゝるむるしき

行ゝゝるまゝゝい銀や金のごとくゝるものをよるにあ
ちゝ十九疵あく汚なき羔のごときキリストの實血をよまる
ゝゝを志まゝあゝ二十キリスト世基をおるゞゝしきをさき
ゞあられ此志此ときにあんぢゝ此爲にあゝまれたまく
ま二あんぢゝいキリストをよみあく世且こまをさゝ
をほたゝたまひし神をキリストをよりて信ゝるを此あり。
これゆゑをあんぢゝの信仰とのゞみて神をよれり二十あん
ぢゝまゞそを靈をより眞理をあゝがひて靈魂をきよめ偽る
く兄弟をあいまるをしゝ潔心をもてたゞひをあ
く相愛まべし二十あんぢゝぶまゝくびゝまゝるいゝゝ屋

き種によるにあらずして朽べきものなり。種まきたもうものは、
たゞ神のいける道によるなり。二四それ人はまことによくられ
ずしてそれ榮はまことのくされ共のおとし草はまことそれ
たちまち落三五さまざま主のことばはあきらかなり。なんぢ
らの蔓つたふる福音はまことにそれ道なり

第二章

故になんぢらまことにそれ怨恨まことの詭譎まれ
偽善われたる不まことの謗言をまことに今なほ嬰兒の
ちゝを慕ごとくなんぢら心をやしなふべし。眞乳をもたふべし。此によ
りてなんぢら長てまことにいたらんためにあぢはひて
主をめぐみたるなれと知たらんまい斯のごとくなんぢ

ゆい入たまへど神によりたまたる貴きい
ける石なりなんぢらもまたきたる活石のごとく建られ
て靈の室となり赤きよりて祭司となり耶蘇キリストによりて
神によりたる靈のそなへものをきよくしてそん聖
書にもとりて我えらびとりたるのたふとき隅のかやい
をシヨンにおく。こゝを信ずるものはいやしからざること
なきなり。二六それ石なんぢる爾儕なんたふときものとな
す信じざるものにはこれ工師にまことにまみの首石となる
るゆゑとなりハ赤つまづく石さまたぐる岩となるなり。な
ほ〳〵ハ道をもちゐざるによりてこれにつまづく此にあり

ちゑくさだめられたるうつ九ゑんぢうにえらばれたるや
ある王なる祭司きよめられたる神に属けるものなれこゝをもて
ぢうをして召たゝくきよりいだしたその異光にいりたる
し者わのまれ德をあらはさしめんがためなり十ゑんぢうをもて
ごときものとなりたまへるなり十ゑんぢういまは民にはあ
らざれ。されどいまは神のたみとなる素はなはだみをうけむ然ど
いまあはれみをうけたり○十一愛するものよ我ゑんぢうに
勸ゑんぢうは賓旅また寄寓のものなれば靈魂に逆らひく
たゝかふ肉の慾をさるべし十二またゑんぢう異邦人のうち
にありて善行をなすべし是ゑんぢうを惡をなすと

ゑんぢうをもてそしりたるのときゑんぢうのよきわざをみ
ひとしくる異邦人をしてそのよきわざをみて眷顧なるふ日に神をあがめしめんがためなり十三ゑん
ぢう主のためにすべて人にしたがふるところのもれにしたがひ
へあるひは上にある王にあるひは惡をなすものを罰
し善をなすものをほめるために王よりつかはされたる
方伯にしたがふべし十五そもゝゑんぢうの善をなすことをも
て愚なるひとの無知のことばをとむるは神の旨なればなり
十六ゑんぢう自由なるをもて自由をもて惡をおほふことなく神のごとくすべし
十七すべてのひとをうやまひ兄弟をあいし神をおそれ王をた

ふべし　○僕　なるものは主人に恭しく主人に恭しく
ふべし　唯よきその柔和なるもののみならず苛刻なる
も服べし　十九　人もし不義なるに苦をうけ神を守ひ
て之を忍ばば誠むべきことなり　二〇　もし過をな
しらずして之を忍ぶとも何の誉むべきことあらんや。
善をなしくるめらるて此をなすは神よりは
　三　なんぢらの召されたるは之がためなり。
そはキリストもなんぢらのために苦をうけなんぢらをして
己の跡を慕ひいしめんとて式をなんぢらにのこせり
　二二　なるに罪なきに罪なきにそのロにいつはりなる

彼　二三　彼ののしられてののしらず苦らるとて厲言をいはさ
ずして義をもて鞫めるものに委ねたり　二四　言なきに
にあらずして我罪をみづからわれが身にをひたり
て是なるにて罪なきにて義にいきんがためなり
彼のむちうちられしによりてなんぢらいやされたり　二五　夫な
んぢらいまだ羊のごとくまよひたりしが今なんぢらの靈
魂の牧者監督にかへりぬ

第三章　妻なるものよなんぢの夫に志たがひ若を
しへに志たがはざる夫あらばなほ妻のわざなる
ものによりて言なくして敬懼をもてきよ

き行をあらためみるようてゐる三あんぢゝのあぎりゝ髪
をくゝみ金をかけ赤ころもを衣ごとき外面のあぎりはあ
らぶ四たゞ心はうちのかくれたる人まるたちれてさあき
柔和悟静なる靈をもて牧飾とまくべし。これ靈のあぎりゝ神
のまへにあらひ貴きものなり五むかし神はようたのくし
聖女もそはをうとは服くるくのごとくれれ色をあきた
る六サラアブハムはあたらひてこれを主とせんくしかごと
しを忘れんぢら善をおこなひ何事をもわそれをば即サラ
の子たるなりと夫たるそれはあんぢらも妻をあらのふこ
とをさとりき器はごとくゝ理はあらをひくこれをもつて居こ

まをうやまふこと生のめぐみを嗣ものごとくまうべし。
これあんぢゝ北祈禱さまたげるこんためなり○八終は
るもとらもんもんぢゝみな心をおなじうしてはもも
ひやり兄弟なかゝゝ憐憫ゝくぢり九惡をあそ惡はむく
ゆるなかれ詛をあそのしりはむくゆるなのれ祝てこく
のごとき人はためは福をそとむへし。そはあんぢらの召き
たる福をつのんためなり。そは生命をあんして
よき日をおくらんとおもふものは舌をおさへて惡をいな
ば唇をとゝぢていつわりをいはざらんこゝをせよ十惡をさ
けて善をおこなひ和睦をもとめてこゝを追べし十二そは主

の目ハただしきひとびと上にとゞまりその耳ハ義人のい
のりにかたむき主の面ハあくをおこなふものに向てい
まべなり 十三 なんぢらもし熱心にぜんをおこなはゞ誰かな
んぢらをそこなはんや 十四 たとひ義のためにくるしめ
らるゝともなんぢら福なるものなり人のなんぢらを威嚇
をおそるゝなかれまた憂るなかれ 十五 なんぢら心のうちに
主なるキリストをあがむべし又なんぢらの裏にあるのぞ
みの縁由をとふ人にはやはらぎと畏懼とをもてこたへをなすべき
んこゝろを恒にそなへよ 十六 且こゝろよき良心に志
たがふべしなんぢらを悪徒なるがごとく誣なんぢら
がキリストにありておこなふ善行をそしるもの自らはぢ
んためなり 十七 もしなんぢらが善をおこなふによりて苦を
うくることが神のみこゝろならバ悪をおこなふによりてく
るしみをうくるにまさるなり 十八 キリストもひとたび罪のた
めにくるしみを受ただしきもの不義者にかはりしなり。これまさ
まらをひきて神にいたらんためなり。そハそれ肉體ハころ
されその霊ハいきたり 十九 そのときその霊をもて獄にある
霊にのべつたへたまへり 二十 これ獄にあるものハむかしノア方
舟をそなふるあひだ神のながきしのびをもてまちたまへるときした
がはざりし霊なり。これ方舟にいりて水によりてすくハれし

者ハ是ごろまして なぐ ハ人あるとき 三 それ水よりて表し
なるバプテスマ 耶蘇キリストのよみこんよりて今てまろ
をもの救これバプテスマハ肉體のけがのきをのぞくまろ
らば善まやらしん神をあるまろ 三 耶蘇キリスト
ハ天よりゆきてしき神の右にいませり。めろくの天使けんね
あるもの能なるもの皆このまんにまれぐふまろ

第四章 キリスト まぐまろのなめよ肉体よくろしみを
うけなまひしまぐまんぢらも亦それこそろをもてみぐこのろ
鎧ふべしまくたいよ苦さらひしまのいつみを幽おき
をまろ)=ことを今よりのちハ此慾よまぐまんぐ神の旨に

まぐまろひて肉体よやぐまるる。餘時をまぐろんなめまろ 三 そ
是ふれろ飽まぎこ日ハいまろしんの心よまぐひく
好色私慾沈酒醉興酒宴偶像をまろにくむぐきこと
をたくまろめぐまぐまや足り四まんぢろこのまろとまりに放蕩
此極よまぐまろにまろこれを怪てまんぢろを
そしるまろ 五 このまろ生るまの死るめれをさぐろんとそる
ものをまろる者よ神の是れこまを陳ん六 まくいんハ死し
是れよのべつたへまろ。そハ彼輩をしてそれにくたいハ人
よりてさま肉をうくるとも霊ハ神よりていのち
を永生しめんためまろ 七 萬物のをまろちづけり此故よ

つゝしみてみづからを制することをまもりて祈禱をなすべし八月
よりも先だゝひよ篤あひなんまもることをまぐし。そ
ハ愛ハ我ら〳〵の罪をおゝくゝがるゝ九なんぢらたゞひよ吝
ことをなく接待をなべし十神のさまゝ〳〵恵をつゝさどるよ紀
家宰のごとくおのゝくそれらゆゝしきところの賜をそなたひ
よはこゝろべし十一人をして道をこのゝをを神のあめしとわも
ひそこのたゞべし人をして服役をなさを神のたまゝちゝとも
おもひてつゝしめをなもべし。こを耶蘇キリストよりて事
々一神よりそれの歸どんたあまう夫さゝえとちゝハ神よき
して世々よりたゞるなりアメン○十二愛まるものよなんぢ

らをこゝろ安く火此ごとき告をつれあるぬこれとごとく
しそなんぢらに異となるるの是十三卻てキリストのくるしみな
與をのそよるこびとをくし然ハそれ榮のなるそもんとき
亦なんぢらまろこびをしるんもしなんぢらキリストの名
此ためよりしらまるば福あるそれさくの天れ靈まるのそれ神
のみたまなんぢらのうへよりまもるよゆゑのさを爾儕よりなるめらるるう十五なんぢらのう
ちあるひハ人をころしあるひハ或ハぬすみをなしあるひハ惡をた
こるひ或ハみだりよ人のことに干涉をして苦よなるを
れたらざるを十六もしキリステアンなるよりて苦よあるは

づる。そこなの主却てこゝをよりて神をなげむべし十七そん
神のいへをそこめとして世をさきまるとき已よりのち
べきこゝをつきまるはもしめよさきせまるとき神
のふくいんよりあらはさるそこれ結局いのちのよそや
大をし義者このうしてまこゝをえを神をうやまんぎ
るものと罪人いづこるたくんや十九これゆゑよ神は能よ
あらはひく其よなよをれハ善をなるひてそれ靈魂を志
んばべき造物者よまこのたべし

第五章

キリストの苦を志たしく見てなるをるし且あるし
もちんとまる。榮よあづこうるこをうるれある長老た

ろうまるんおろのうちよを我とあるおづく長老なるをれよ
まこむニるんおろれらちよあるる神のひつじの群をこへ。こ
当を牧つるきどるよ止をえだしそるきだこれそるし利
をむこはるなるよるるべ樂てるまくし三まれるんぢら託
せこうたるをれよ主とまるべこうば羊のむ当の式とある
べこ四るんぢら牧者の長れなるをんときよくること
るききの元れ冠冕をえん五まこ幼者よまこむ。るんぢら長
老よあらづへ且たづひよみる相服てけんそんを衣よ。そこ
神はたらづるけれをうせぎて謙遜をれよめぐみをあたへ
たまふるこ六このゆゑよるんぢら神のたへのうれ手下よ

おれをひく〳〵まべく期いたらばこの世あんちをたらく
せんとするんぢらそれ憂慮しこころをみな神よりゆだねべく。そ
は彼あんぢらをこのくりみたまへるなり○八謹慎儆醒あん
ちらの敵なる惡魔ほゆる獅子のごとくへめぐりてのみ屋
きものをたづぬ九あんちら信仰をこのたく〳〵てこれをふせ
げそはあんぢら世にある兄弟のなるごとくこれ苦をうくる
をたゝめばなり十まべての恩惠をたゝふる神まことあんち
ちらをして暫時くるしみをうくるのち基督耶蘇にあ
るこのぐりあきらめいしめんとそあんぢらをまねきし神
あんぢらをいたらしめ堅くつよくして基かうへにたまへ

べく十一ねがはくは權力よ〳〵神にあるまでアーメン○
十二ヲもてわれらのもとシルワノハ忠信なるきやうだいなり。ヲもて片
言のうちを彼にゆだねあんちらにわたくして勸をなしこの
あんぢらが十三ところのめぐみは乃ち神の眞恩なることを
あらはせり十三バビロンにあるこゝろのあんぢらと共にえら
ばれたる教會あんぢらにやまれを問まれにが子マコもあ
んぢらに安をとなへ十四あんぢら愛の接吻をもてたがひに
やまきをとへ願はキリストい匹にあるあんぢらまべて
平康ならんことをアーメン

新約聖書彼得前書終

使徒ペテロ後書

第一章　耶蘇キリストの奴また使徒なるシモンペテロより
きろの神と救主イエスキリストの義によりてとくがう
けしところとおなじ寶貴きんろうの道をうけしわれら書
をおくる　ねがはくは神と我きろの主イエスを識るより
てなんぢらに恩寵とやすきのまさんことを　三　神それ能力
よりおのづから生命と敬虔とこれを賜へり。こはきろきろ元と德をそなへきろを召たまひ
し者をきろよりてなり　四　また神そのきろ元とかくるよ
りて大なるたからとき約束をきろよりなのたまへり此

ハ汝ら力を盡して信仰に德を加へ德に知識を加へ
の慾に敗壞を免れ神の性質に與かしめんなり五
られ故に汝ら勤て堅き德を以て知識に
を以て六知識に節制を加へ節制に
に忍耐を加へ忍耐に敬虔を
兄弟の愛を加へ愛に
の重
主イエスキリストを
怠らず
遠みるべし且それ
主イエスキリストは
救
國に
恩
恒に
眞道に
尚
主イエスの
選
堅固せよ
行
躓
神
主イエスの
國に
恩
恒に
眞道に
尚
主イエスの
帳幕に
此事を
當然の

へり十五そんするものの主い匹はキリストのするよりあらしれ
まへるごとく我するぶまくやを脱離らとれちきをあきらと
あり十五そきまくあんぢらをしてそぶ世をきらんのちまも
常よりきまくのことをおめひいだきしめんらを勤まられ
ち前よりあんぢらよりきまくの主い匹はキリストの能力とそ
の顕現なまふらをつぐるよ巧なる奇談をともあぎりき。
そきまくハ親しくその大なる威光をみしめれあり十七至大な
る榮光のうちより聲ありてこのきを呼よんそぶらくろよこの
あれ子愛子なりといへるられ時なるに神なるちよりよ
尊と榮をうけたり十八そきまくと共なる聖山よあるし

ときこの天よりいでし聲をきけり。十九殊よりよげんおやの確
言そきまくよあり。これこそとくらきところよりてきまる燈の
ごときものなり夜のなくるまで明星のあんちちの心れう
ちよいづるまでこれきをうへくりみを善二十先たドめよ志る
きこそこれ聖書のよぐてのよげんい預言者おのきれ意をと
て志めせるよあらぐるを志らんことなり二十一そこれ預言いを
とより人意よりていでしよあらだ神よぞくまる聖人せ
い志んよ感ぐそこのたりしこのるきぐなり

第二章 むろし民のなるよ偽のよげんドやあり。きそのごと
く志んぢられまるもいろちりの師いぞん。なきらん淪亡

よいなる異端をつたへ且おのれを贖ものゆを主とせざりしを速なるほろびをみづから取て二又おほくの人このもろもろの
好色によりて謗讟をうけん三これら
貪心によりて造言をまうけんなり利をとらんとて。
このもろもろの刑罰いむかしより定まりたるなり寢ぜる神さきに罪を犯せし天使をゆるさざ
らんほろびに寢ぜる神さきに罪を犯せし天使をゆるさざ
らまを地獄におとしいれをくらきあるなほきらまを禁
錮このもろもろをして審判のときまでかたまりおく五また古
世をゆるさざる洪水をもて神をうやまはざる世をほろぼし
なほ義道をつたへるノアの一家八人をまもりたまへり六またソドム

とゴモラの邑をほろぼしたまへるとき定まりたるをもて灰となしてのちに
ちに神をうやまはざるものの鑒となすこれ七唯なほ義しきロト
即ちきたなき淫亂のわざをなほ義しきひとを恒にうれへたまへり者をまた
へりこれ義人なれどもかれのみるところ日々その不法のわざ
るひとを見聞してかれの義なるき心をいためたりこれ九かく
のごとく神をうやまはざるものを患難よりすくひ不義なるを
此を審判の日まで待てらまを罰して別てけがれたる
情慾にしたがひ肉のよくをおこなひ主たるをこれをうろん
じるものを罰するらまを知たまふなり此ものどもは膽ふ
とく自放なるものにして尊者をそしることをおそれざる

ある。十一天使は、この世界の大なる権威と能力とをもて
ど主のまくまに、このたふとき言葉を誦してうつたふることを
せず。十二かれらは執拗にして、なほうまれたる無知
けものごとく知ぎるところのことをそ〜まそれ邪曲な
ようはるぶきまして不義のむくいをうけん。十三このもろは白晝
も酒食をたのしみとして珀ある瑕ありてんぐらとなりて延
まなびうるときその詭譎をたのしみと世り。十四このもろは目な
淫婦をみたし罪なきをしてやめぢ心のこのもろざるその
をまどもしそれらをむきわりて慣ふるべき子
輩なり。十五このもろは正道をすてて迷ひゆきボソロの子バラムの

みちにしたがへり。バラムは不義の利をむさぼりしめるな
り。十六この人はその不法のためにとがめられる語ことなのなをざる驢
馬ひとの聲をあらしてよげんしゃの狂をとどめたり。十七此と
もがらは水なき井なり。狂風にはらるる雲なり。黒暗このもろ
のためにはこのぎりあるべくのうまれ。十八そは、このもろは矜誇なるむ
なしきことばをこの世の肉慾と淫亂をもてそ彼まよひ人るものと
うちより辛うして脱離なるものをいざなふ。十九又これ
らはみづから自由をあたへるとまれどもそのみづからは堕
びの奴隷なり。そは、このなるものは勝めるものはしもなれを
なり。二十このもろはもしつるもろの主なる救主イエスキリスト

を去るまでよりて世のけがれをのがれ復こゝまでまもらふ是
このかなるとき八そは後のありさまを前まもりてさるべ
なるべし三義のみちを去るまて尚そのつたへら
まゝとゝろの聖命をそんよりハ寧ぎはみちを去らざる
を美とまべし三犬くりきかりてそは吐たるをはをくら
ひ豕あらひきよめらまてまた泥のあるに臥といふる諺ハ
まことまて一のまこと

第三章 愛

一そのよるまを今こは第二のふみをあんちら
ゝきあるこは兩書をとそあんちらの眞實なるこゝろ
ををげまし三きまきまきはは預言者のかたりしことをとる

んちらの使徒たちつたへ上なる救主のいましめを
記憶せんとを三先そしめ此こは、ことをとるべし末日い
たらば戯謔者らをきたりおのれ慾に随ひてあゆみ
四主のやくそくちなまひしそは降臨いつまあるや列
祖のねむりしより以來そはそのはじめとこの
ちるこはとをんを五この世ハ神のことばによりて
むかし天あり地の水よりいでかつ且みづによりて立ちたるこを
よりていにしへは世みづに淹されてほろびたるこをを知を
こはまたそは神ハその命をそいまは天と地をかくを
へこれを火にそやはんためにに神をうやまんざる人をさば

きまろ淪亡の日までのこせり八愛まるこれよりんぢろこ
の一事をわするべからざるべしの主はのそは一日は千年のご
とく千年は一日のごとし九主はそのやくそくをおそくしとも
こころを成はおそきに或人のおそしとおもふがごとくはあ
らず一人のはらぶるものをみなまちを衆人のくひなろ
なめはひとりんこころをのぞみてこれらをあづく忍なまふ
ありけれど主の日のきたること盗のよるきたるが如る
らんそれ日は天おのひるる響ありてきり體質こそとくく
やはくづる地とそれ中はあるその皆やけつきん土斯のご
とくまべそれすめ鎔さきん然はんぢら神の日はきたるを

待こころをまろやろはせんことを務のこのるきよきき行をる
神とうやまるこをあるべきや十二神の日はん天をえくづ
る體質やけとけん十三きまどこまろはそれ約束はあり
なるーき天とのなるしき地をのぞみまそり義それぢらは
なり十四愛まるそのよるんおぢらまべはこ主をのぞみまてぞ
珀あく疵あく主のまんは安然はあるんこころをつとめは十五
まべこまろの主はこまろを永をのびたきはいまるまくの救
とあるるをあるべし。これらはあはまる兄弟パウロもそのあは
へら章ー智慧はあたづひ曽てこれこころをんぢらはのき
おくまろ十六彼そのまべくの書るもこのまとはつのくのうた

至ふり彼のふみ此をよい難明ところあり無學なる人は心のうちなくなる者はほろの聖書をあひとくがごとくこれをも強解てみづからほろびにいたるなり主愛する人よ汝ら預ねらまをあらかじめつしめよ惡者のあやまりよさそそきてそれ堅固心をうしなふことなかれ十八汝ら主なるまたまたくその恩惠をあるいはキリストを知ることをつとめよ。願くは榮光いまものちもうまつる歸しそうぎりあらんことをアーメン

新約聖書彼得後書終

使徒ユダの書

耶蘇キリストの僕ユダまたヤコブの兄弟ふみをめきまたなる者またなるそれ父なる神に愛せられ且いまはキリストの爲にまもられ召れ二ねがはくは汝らに慈悲と平康と仁愛のまさんことを三愛する者よ我すべての人ことを熱しそまりに與へられたるところのまことひとたびことを汝らに書おくらんとおもひおもひがけなくふみをおくりて聖徒が一次つたへられたる信仰のみちにたなめに力をつくしてたたかふことを汝らに勸ざるを得ず四そは神をうやまはざる人ひそかに入きたるの神にめぐみをこのくに

色慾をほしいまゝにまとる此縁となる〳〵惟ひとりの主なる
神とこゝろの主い匹にキリストをまとるの數人ひそゝに教
會よりいまだ出ざるゆゑ刑をうくることたさ
だめらきたるこゝろ昔よりあゝゐめたるさきたり五
なんぢら素より志まることゝなるとも我るはなんぢらこれ
をひいだきせんとまることゝ主それ民をエジプトの地よ
りまことひいだせし〳〵のち信
信ぜざることをほろぼしたまひ
しこゝろ六わのが本位をまもらざりて其まもるところ
をすてたる天使をこのぎりなく つるぎて大なる日此さで
きまで幽暗のくらやみにおきたまひしこゝろ ヒソドム

ゴモラおよびそのまちをはじめ邑のまちとおなじく姦淫を
なしこの男色をおこなふゆゑにより火のそら況
うけて鑑戒となりこゝろ此いめみることは
もまた肉體をけがし主なるものをろろんじ尊者をそし
まり九そもそも天使のをきミカエル惡魔とモーセの屍をあら
そひ論ぜしとき彼なほこゝをそしりてうちなくざりき。
なぐ主なんぢを責べしといひ十然よこのゆゑに志ろざる
ところのまことをそしまり。それ本性志るところい無知け
ものゝ志るところをそしるゆゑに彼儕いこゝをそしるおのを
をほろぼせり十一禍なるこのをうまきをカインの途よりゆき

利のためにバラムの迷謬にまぜまさコラのさのごひごとくしてほろびたり十三このまろまんぢに此愛のうろまひに磐あり。もぐこのうろとろるく雲もそのえ筵席にあづうりてみづのうを養ふ。このまろいい風におそるる雨のうき雲このまそまさうれ根株をぬろる果のうき秋の樹十四それ穢をうきいだを海のあうき浪あり。こうまのためにあ黒暗をこのぎうるくとあれうをたうり十五アダムより七世にあるまるエノクこれとものうのこうを預言していひけるいみに主それきう紀尚軍とともにきうりて十六衆人をさばきまべて神をうやまをざるもの〜神をうやまをだしておうるひ

志あ〜きうぎと神をうやまはざる罪人の主にさのうひてこのうまるまべくのあ〜き言をせめたまふべ〜と十七このとものがうい怨言をれ足こうをあうざるそのおれまの慾にあをがひてあるうきそのロハはうるうことをこのかるを利れために入るうふをものあり十八愛をるそれにあんぢらうが主いエスキリストの使徒たちの以前このかう〜言をあうひいだだ〜十九即ちんぢうにこのかうまいふ末期にたぎけるもれおうり已がよう〜まるる慾にまたごのひくあゆまんと十九このまういみづこのう區別をるをのまた肉につけるものにして聖靈のうきそれあり二十愛まるを

せんぢうそ徳をいときよ紀信仰のうへよ建せ給き
いよ感じそいれ三みづこうをまもりて神の愛のうちよ
居そまろの主い所キリストの永生をたまふそのあえれ
みをまろべし三このまろの中なるこのをび論じて口説
つぐまし め三あるものをび火よんとるをいだして救ある
ものをび畏懼をそなたるまむ。その悪いにくの慾よ
そみなる衣まぐもにくむことをせよ○論つまろの救主み
る獨一の神まるちるんぢ説つまづろ世じと保るんぢ
らをして汚るくよろらびてその榮光のまへよなつこと
を得せしむるそれハ世のちんめまへより今またのちも世々

このぎりるくまろの主い所キリストよりて榮と威光
と大能と權をたまふこまりアーメン

新約聖書猶太書終

PRINTED FOR THE AMERICAN BIBLE SOCIETY
聖書會社藏板
米國

010190528680